

07

July  
2024

[月刊]キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2024年7月1日発行(毎月一回1日発行)第799号

出会い・本・人

私の読書体験

李 聖一

特集シリーズこの三冊!

命の尊厳を見つめるならこの三冊! 高瀬一使徒

本・批評と紹介

加藤久美子著 文脈の中のアフオリズム 勝村弘也

石浜みかる著 証言・満州キリスト教開拓村 加山久夫

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編

エコロジカル聖書解釈の手引き 山口希生

大頭真一著 牧師・大頭の「焚き火」日記 大嶋重徳

コリン・E・ガントン著/柳田洋夫訳 キリスト教信仰 近藤勝彦

田中従子著 ナジアンゾスのグレゴリオスの聖霊論 阿部仲麻呂

金子晴勇著 キリスト教思想史の諸時代 別巻2 出村和彦

武田信嗣著 さげびはどこどく 金本 悟

山田耕太著 携帯版 Q文書 大貫 隆

◆ 近刊情報

◆ 書店案内

# クイア神学入門

その複数の声を聴く

5月24日

クリス・グリノフ著／薄井良子訳 レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを意味する「クイア」。その基本的な諸概念を平易に解説すると同時に、クイアと向き合う多様な神学的冒険の歴史、および最前線の議論を紹介する。

◆四六判・定価2970円

# 滝沢克己の現在

没後40年記念論集

5月24日

滝沢克己協会編 「純粹神人学」とは何か。滝沢が最晩年、挑発し続ける———それに応答する14名の渾身の論考を収録する。

◆四六判・定価3740円



# 奴隷より身を起して

ブッカー・T・ワシントン 自伝



ブッカー・T・ワシントン著／佐柳文男、佐柳光代訳／大森一輝解説  
奴隷として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功していく過程を、生き生きと語る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像。必要なのは同化か闘争か？ 大森一輝氏（北海学園大学）によるワシントンの評価・受容をめぐる充実した解説を付す。

◆四六判・定価2860円

# われら主の僕

リベラルアーツの森で育まれ

ICU伝道献身者の会編

大反響

◆A5判・定価2310円

〔寄稿者の一部〕松永希久夫、小澤貞雄、新保満、竹前昇、原崎百子、川田殖、荒瀬正彦、齋藤和明、並木浩一、棟居勇、伊藤瑞男、斎藤剛毅、渡邊正男、絹川久子、長沢道子、左近和子、田中弘志、浅井重郎、吉馴明子、宮崎彌男、矢澤俊彦、青野太潮、安積力也、梅津順一、栗林輝夫ほか

# ロゴセラピーと物語

フランクルが教える〈意味の人間学〉

勝田茅生著（NHK「こころの時代」講師） ◆B6変型判・定価1760円

フランクルの創始したロゴセラピーの中心メッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。著者はNHKこころの時代「ヴィクトール・フランクル」の講師（2024年4月～9月、第3日曜日／同週土曜日放映）



一挙2点  
重版出来！

ロゴセラピーのエッセンス 18の基本概念 ◆B6変型判・定価2090円

フランクル著／赤坂桃子訳 『夜と霧』英語版に著者自身が付けたまたとない解説。



## 私の読書体験

—— 李 聖 一

生まれながらにして、私は、二つのことを背負わされた。「カトリック性」と「在日性」である。母方は朝鮮キリシタンと呼んでいいほどの古いカトリック一族で、大正の終わり頃に日本に渡ってきた。なぜか広島に住み、家族全員が被爆した。その点では、「被爆性」も背負わされたといってもよい。「これを日本社会でどう生きるか」という問いを避けることもできなかったが、そうはせずに、真摯に向き合うべきと決断した時から、自分の生き方は大方決まってしまったと言ってもいい。14歳だった。そして、答えを見出すべく悶々としていた時に出会ったのが、「カトリック文学」と「在日朝鮮人文学」であった。

遠藤周作の『沈黙』の映画が1971年、『イエスの生涯』が1973年。李恢成の『われら青春途上にて』が1970年、『砧をうつ女』が1972年。高校生の時に出会ったこれらの作品が、自分の生き方を考えさせ、何をどう具体的に周囲の人々に示そうかと、頭と心を悩ませた。

同時に、歴史の先生になりたいと思っていた私は、国籍条項ゆえに、公立学校の教員にはなれないことを知り、ならば私立でと思い立ち、カトリック系の大学に進むことを決めた。そして、中世ヨーロッパの教会史と哲学を志すようになった。

私の読書体験は、自分のうちに何か問いがあつて、答えを見出だそうともがいている時に、ある書物と偶然出会い、それをつかきかけに、考え方と生き方の方向性を決めたということに尽きる。読書量を誇るほどに本を読んだことはない。読み漁ったという体験もない。出会った一冊の本を、自分の背景のうちに読み、自分ために何かを学び取っただけである。

最近あまり本を読まなくなった。自分のうちに問いがなくなると、本との出会いもなくなるからであろう。ぼちぼち、人生の旅路の終わりがな、と思う。

(リ・せいいち＝上智学院カトリック・イエズス会センター長)



## ▼シリーズ この三冊！

# 命の尊厳を見つめるならこの三冊！

## 高瀬一使徒

(たかせ・かずしと) 社会福祉法人三愛学園理事長、  
元ワールドビジョンジャパン職員

活の場を提供しながら、心と魂の回復の支援をしています。また以前は世界の貧困地域や戦争や自然災害の被災地にある子どもたちの、命の保護と成長の支援に長く携わりました。それらの経験や学びと重ね合わせながら命の尊厳を考えるとというテーマで三冊を選んでみました。

人や動物さらに広く「生きとし生けるすべての命の尊厳」を見つめようと

するとときに欠かせない前提条件は、聖書創世記に記されていることを受け入れることが重要であると考えています。

すべては良きものとして創造され、幸せに生きるために命を与えてくださったという信仰に立つことです。特に人間は創造者のイメージに似せて創られました。人は生物学的な命だけではなく心や魂も与えられており、その全人性 (wholeness) を尊い命として

見つめることが必要です。しかし人が

罪を犯したことにより命は限りあるものとなり、生きる上であらゆる苦難が起るようになりました。病、貧困、差別、憎しみ、自然災害、戦争等、私たちの人生には苦しみばかりと思えるような現実があります。これらによって命の尊厳をただの理想論とし、目を背ける理由にはいきません。どんな状況であろうと命は尊いのです。私は現在、主に不適切な養育や虐待を受けた子どもたちに安全・安心の生

佐藤律子／編『種まく子供たち——小児がんを体験した七人の物語』

編者自身の息子さんが小児がんにより16歳で他界したことをきっかけに、同じような境遇にある子どもたちとご家族を応援しようと、他の当事者やご家族の方々に声をかけて執筆していただき編集した本です。この七人の物語には、病から回復して社会復帰した方のものや、他界した子どもたちのご家族のものや、他界した子どもたちのご家族のものが収められています。それほど長くない手記で短時間で読みやすい本で

す。小児がんは白血病に代表される血液のがんが多く、実は筆者も同じ血液のがんである悪性リンパ腫に罹患し闘病していた時に読んだ本なのです。この本を読もうと思った理由は、不遜にも自分より過酷な状況にある子どもたちの手記を読んで、自分を力づけるといふ思いからでした。しかし子どもたちが弱ってゆく自身の肉体や心に対して魂を燃やながら向き合った手記であり、生まれてきたことや育ててくれた親や友人への感謝に満ちている内容で、恐怖により肉体以上になえていたわが魂に新たな命を吹き込んでもらいました。

手記には自身や愛しい我が子に突然襲い掛かった苦難に「何故自分が？ 或いはわが子が？」と困惑し恨むことから、病を通して与えられた人生を受け入れるまでの過程が記されています。受験勉強に集中していた普通の高校生

男子が突然発病し、壮絶な闘病生活の中で死と向き合い、自身の生きる意味を見出します。そして両親の前で以下のように宣言します。「感謝したいから生きのびよう。自分だけのいのちなら延命もむなしと思うが、まわりの人やものに感謝するためなら長生きしてもいいかなと思う。」人の命は長短で幸不幸を見るのではなく、どれだけ感謝して生きたかが重要であると若い魂から教えられます。本全編を通して「ありがとう」のフレーズに溢れており、必ずや読む人に命への感謝の種をまいてくれると思います。

福井達雨／編 止揚学園園生／絵

『にわとりさんはネ・・・』

本の著者である福井達雨氏は、一九六二年に重度の知的障害のある方々の施設として、滋賀県東近江市に止揚学園を創設しました。施設の名前の止揚

とは、「ふたつの全く異なる者同士がぶつかり合い、より高い次元へ到達し、新しいものが生まれる」という哲学用語です。

知能に重い障がいのある仲間と、障がいのないと言われる仲間がお互いにつかり合い、認め合い、支え合って「共に生きる場」「帰ってくる家」をつくっていきたいと願って名付けられました。その止揚学園の日常生活で起こったある出来事を、園生の絵と福井氏の言葉で綴り絵本にしました。編集後記には、この物語の背景となったできごとが福井氏の解説と共に綴られています。このパートを最後まで読むことで初めて、ほのぼのとする絵本の中に込められた深いテーマに到達することができそうです。

絵本にはニワトリのお世話をする主人公のミキオくんとお友達、そしてひよこから卵を産み始め三年が過ぎてお

ばあちゃんになったニワトリのノンコの様子を素材ですが明るいタッチで描かれています。絵本ですので、子どもの読み聞かせに最適なのは勿論ですが、ミキオくんによって命に対する二つの普遍的テーマが想起されていて、おともも読むに値する一冊だと思います。

第一のテーマは、人や動物の命の尊厳は、誰かの役に立つかどうかではなく、存在そのものであることをミキオくんの魂は教えます。現代はコスバ（コストパフォーマンス）やタイムバ（タイムパフォーマンス）が重視される時代です。この価値観からすれば卵を産まなくなったノンコは、廃鶏処分になるのが当然と思えます。しかしミキオくんは、「ためだよ。ノンコだけどこかへやったら、いやだ」と素朴な言葉で友だちに訴えます。そして、どうしていけないのかという友達の問いに、このように返すのです。「たまご

をよくうむにわとりは、たまごをうめなくなったにわたりのぶんまで、いっしょにたまごをうんでるんだ。」彼のこの言葉の中に第二のテーマを見ることができます。

それは命というものは、助け合いや関わり合いを通してのみ幸福や満足を得られるということです。人間は一人単独では生きられません。強い者が弱い者を助け合うこと、できる人ができない人を助け合うことは上下関係ではなく、このことを通してお互いが孤独感や無力感に陥ることなく、幸福に生きられるよう神様は私たちを創造されたという事です。苦しみの真つただ中にある方に対して不謹慎かもしれませんが、災害時や戦時下の中ですべてを失った者に対し、残った僅かばかり物をも惜しみなく分け与える者があり、混乱の中で生まれる助け合いや連帯は、その地域に一時的ではあるが各種の

ユートピアを出現させる」と語ったあの研究者の言葉がこのテーマの解説として説得力を持ちます。

木下活信／著『弱さの向こうにあるもの——イエスの姿と福祉のこころ』

著者は同志社大学で教鞭をとられ、テレビやラジオにも出演されている社会福祉学の専門家です。この本は、「命の尊厳」を見つめ、その養護や回復の仕事に携わる福祉関係者やボランティアのために書かれた本といっても過言ではありません。なぜ、私たちは命を大切にしなければならぬのか、人間の命の尊厳とは何かというシンプルで深い問いに、聖書を引用し丁寧に解説しています。特に本の題名にもなっている「弱さ」に焦点を当て、サマリアの女とイエスの対話から奉仕する側のあるべき姿勢を導き出している点は福祉専門家ならではの考察です。



『種まく子供たち  
——小児がんを体験した  
七人の物語』

佐藤律子：編

ポプラ社

2001年刊

四六判 215頁

1,430円

※現在は販売しておりません。図書館のご利用をお薦めいたします。



『にわとりさんはネ・・・』

福井達雨：編

止揚学園園生：絵

偕成社

1989年刊

26×21cm 40頁

1,320円



『「弱さ」の向こうに

あるもの

——イエスの姿と

福祉のこころ』

木下活信：著

いのちのことは社

2015年刊

B6判 192頁

1,760円

「水を飲ませてください（ヨハネ4・7）」とイエスからサマリヤの女にお願いすることから始まる対話の意味は何だったのか。著者はこの問いに対し、社会的に差別を受けている弱者の女に、渴きという自身の弱った肉体状況をあえて現わせられたイエスの姿こそ、奉仕する側のあるべき姿勢であり、ともすれば上から目線になりがちな奉仕者

に「自分は弱い者、愛せない者」という自己覚知を促してくれます。個人的には児童福祉というまったく未経験の分野で、しかも児童養護施設の園長という立場を託され、周りに未熟さや弱さを見せまいと肩を張って役割をこなしていた当時に読んだ本だったので、福祉に携わる者としてパラダイムシフトを与えていただきました。後半は、

日本が抱える社会問題や福祉領域の課題、そして教会や奉仕する側の姿勢や技術的な領域まで関連聖書箇所を読み解きを挿みながら綴っています。福祉関係者のみならず教会奉仕者や教育関連、さらに国内外で被災者の支援活動をしている方々には是非読んでいただきたい本です。

## 箴言研究の未来を 指し示す野心作

〈評者〉**勝村弘也**



文脈の中の  
アフォリズム  
箴言10—12章の構成の研究  
加藤久美子著



本書は箴言の第二部（10・1—22・16）に収集された詞ことばの中から「義人」とその反対語の「邪悪な者」が頻出する冒頭の三章を取り出し、その構成を綿密に考察した研究書である。本書で論じられる箇所が限定されており、しかもヘブライ語原文に関する細かい議論が至る所に出るために、特殊な研究として他分野の聖書の研究者には敬遠されるかもしれない。しかし本書で採用されている詩文テキストの分析法は、聖書文学全般の理解にとってきわめて重要なものであり、またそこで論じられている思想に関しても応報や互恵性のようなアクチュアルな問題を含んでいる。

第6章以下では、小規模ユニット、中規模ユニット、全体の構成の3レベルの区分について説明された後、箴言10—12章の分析がなされる。ここでは10章1節以下の詞集の中に収集されたアフォリズムがランダムに集められたもの

なのか、一定の「意味ある配列」をしているのかが論じられる。これは小さな形式上の問題ではなく、この詞集全体の解釈に関わる重要な問題である。研究史上重要なフォーン・ラートの著作では箴言10章以下に編纂者による意図が一定程度認められるとしたが、配列に関する考察は不十分であり、編纂者の年代設定には問題があった。その後のA・マインホルトの注解書などでは、著者の言う小規模や中規模のユニットへの区分がなされるようになったが、このような区分に十分な説得力があるのかが問題であった。

著者がこのような区分への前提として論じているのが、「聖書ヘブライ詩の並行法」と、これに続く「差異を伴う反復」の部分である。ここは本書全体の理解にとって不可欠であるだけでなく、旧約の詩文学全体に関する理解を深めるはずの箇所である。並行法に関しては18世紀のR・ラ

ウス以来「同義的」「対立的」「総合的（構造的）」の三種類に分類され、これが長くどの注解書でも当然のように使用されてきた。しかし、一九八〇年代以降、構造言語学などの影響下にJ・L・クレーゲルやA・バーリンなどによってラウス流の分類が批判されるとともに、より厳密な考察がなされるに至った。バーリンによる「語」と「句」の二つのレベルにおける「文法」「語彙・意味」「音声」の三つのアスペクトによる等価性についての考察は（99頁の表を見よ）箴言以外にも十分応用できるものである。

本論における小規模ユニットの構造を考察する箇所には表がある（189頁など）。そこでは価値の正と負に続いて、人物が単数か複数か、さらに「文の種類・動詞語形」が示されている。正と負というのは、例えば「義人」「勤勉」

などが正、「邪悪な者」「怠慢」などが負になる。義人や邪悪な者が単数か複数かが次の項目になる。三つ目に「文の種類・動詞語形」という文法的要素に関する項目を立てたことが本書では重要である。このことによって小規模ユニットへの区分が十分な説得力を示すことになる。

このような綿密なテクストの分析によって、浮かび上がってくるのは、そこで問題になっているのが単なる個人のモラルではなく、共同体全体のあり方だという点である。さらに箴言の語る義人が共同体のために働き善をなす者であるというに留まらず、世界を統治するヤハウエ神への信仰につながっているという点なのである。

（A5判・三五二頁・定価六六〇〇円・日本キリスト教団出版局）

## 信仰生活ガイド 全8巻 《第2期第1回配本》

# 祈りのレッスン

柳下明子 編



『信徒の友』記事を書籍化する、信仰生活入門シリーズ第2弾。祈りの入門から、お手本になる祈りの紹介、礼拝での祈りの解説や日々の祈り方の提案などを収録。四六判並製・128頁・定価1540円

## 「敬神愛人」をめぐる系譜と群像

### 「建学の精神」の源泉をたずねて

名古屋学院大学キリスト教センター 編



F・C・クライン、U・G・モルフイ、内村鑑三、福田敬太郎……名古屋学院に関わった4人に、「建学の精神」「敬神愛人」のルーツをたどる論考集。A5判上製・296頁・定価4400円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

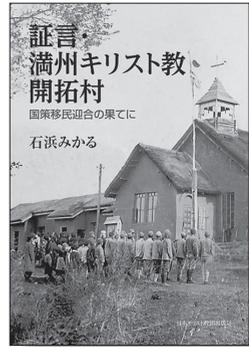
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》

<https://bp-uccj.jp>

## 不都合な真実に向き合う

### 渾身の証言

〔評者〕 加山久夫



証言・満州キリスト教  
開拓村  
国策移民迎合の果てに  
石浜みかる著



敗戦後七九年、あの戦争は一般に「太平洋戦争」と呼ばれてきたが、その根幹には、日本の中国侵略があったことはいずれも忘れられがちだ。意図的に忘却してきたのかもしれない。そのことでは教会もまた改めて問いかけられる。国策だった「満州国」への移民政策に教会もまた迎合したのだから。本書は著者石浜みかるさんが長年にわたりこの事実と向き合い、調査・研究した貴重な成果である。

日本が国策としてつくり上げた傀儡国家「満州国」（一九三二年誕生）関係については、戦後、記録や研究など膨大な資料が残されている。にもかかわらず、その事実はこの国と国民の集団的記憶として根を下ろすことはなく、時代の経過とともに忘れ去られてきた。そもそも歴史教育の中で教えることも殆どしてこなかった。

著者は「満州国」史の全体像を簡潔に伝えるとともに、

国策移民としてそこに送り込まれた人々を注視し歴史を内在的に描き出している。このため著者は元移民の方々を各地に訪ね直接証言を聴くとともに、中国の現地にまで足を延ばしておられる。

さらに、移民政策の実現のために重要な役割を果たした人物、その渦中で葛藤を抱えながら、結局、国策に迎合していった人びとについても詳述。この複雑な歴史の実像を重層的に捉えて紹介した本書を多くの方々読んでいただきたい。

本書は、以下の七章から構成されている。序章 戦後、忘却された〈疼しき〉／第一章 なぜ開拓村は襲われたのか／第二章 海外移民と満鉄時代／第三章 移民と「満州国」建国／第四章 「移民」から「開拓団」へ／第五章 キリスト教開拓団／終章 「大陸への移民史」の終焉／あと

がきにかえて——「日本の半分」を知らない現代日本人  
「満州国」建国当時、関東軍による侵略はすでに中国の  
奥深くにまで及んでおり、そこを拠点にして、地下資源や  
食糧の供給源の獲得をめざして百万戸の移民を送る周到な  
計画がなされていた。(第三章) それが「五族協和」「王  
道楽土」のロマンある美名に隠された実体であった。その  
なかに二次にわたる「満州基督教開拓村」も参加すること  
になる(第四章および第五章)。賀川豊彦の訪満(一九三  
八年)がその端緒となった。

満州各地を案内された賀川はその広大な土地や建国の理  
念にロマンを感じ、ぜひキリスト教開拓団をという要請に  
応えたのである。日本基督教連盟は賀川を委員長とする準  
備委員会を設立、後に日本基督教団に引き継がれた。その

結果、敗戦にともなう嵐のなかで実に悲惨な運命が待つて  
いたのである。多くの犠牲者がいたなか辛うじて帰国でき  
た方々の戦後も苦難の連続であった。

賀川豊彦記念松沢資料館はこの事実を広く伝えるべく、  
二〇〇六年、関連資料を発掘した戒能信生牧師および石浜  
みかるさんのご尽力により、特別展を開催。初日には日本  
キリスト教協議会および日本基督教団の総会議長をお招き  
し、神と参集された元移民の方々の前で、謝罪の礼拝をさ  
げた。本書が賀川事業団雲柱社の出版助成を受け日本キ  
リスト教団出版局から刊行されたことは大変喜ばしい。

(かやま・ひさお 明治学院大学名誉教授)  
(A5判・二四〇頁・定価三三〇〇円・日本キリスト教団出版局)



## 福音主義教会法 と 長老制度

深谷松男  
FUKAYA Matsuo



日本の福音主義教会の法について、初めて体系的にまとめた労作

民法学者である著者が、日本基督教団常議員、同信仰職制委員会委員として、また長老としての経験を踏まえ、具体的な事例に即し教会法を考察。

A5判・上製本  
定価 3,520 [本体 3,200 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-157-1



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## 「エコロジカルな宗教改革」 を求めて

〈評者〉 山口希生



エコロジカル  
聖書解釈の手引き  
関西学院大学キリスト教と  
文化研究センター…編



クリスチャンであるかどうかを問わず、多くの人が聖書に対して抱いているイメージは、「人が救われるために必要なことが書かれている宗教書」というものでしょう。もちろん、聖書は様々な時代に書かれた多様なジャンルの文書を含んでいるので、その内容を人間の救いの問題だけに還元できないということは、聖書を読み進めればすぐにわかることです。それでも、特に宗教改革以降、人々が聖書に問い続けてきたのは「如何にして私の救いが確かなものとなるのか」という問いだったことは否定できないでしょう。曲論・暴論のそしりをおそれずにあえて言わせていただければ、宗教改革とは「私の救い」を至上命題とする、エゴ中心的な宗教運動だったとは言えないでしょうか。しかし、人類が自己の繁栄のみを追いつめた結果、他の多くの被造物の生存が脅かされ、それが人類存亡の危機へと跳

ね返ってくるという負のスパイラルに陥ってしまった私たちには、エゴ中心的な考え方や生き方から脱却することが強く求められています。本書の寄稿者の一人である藤原佐和子先生が述べておられるように、宗教改革から五〇〇年を超えたこの時代には、「エコロジカルな宗教改革」がぜひとも必要なのです。そして、かつての宗教改革のスローガンが「聖書のみ（ソラ・スクリプトゥラ）」だったように、新たな宗教改革にインスピレーションを与えるのも聖書です。聖書はもちろん人間の救いの問題を扱っている書ですが、その人間の救いをさらに大きな枠組み、つまり全被造物の救い、そして地球共同体を構成する人間と他の被造物との真の和解という枠組みの中で捉え直す必要があるのです。東よしみ先生のヨハネ福音書の解説から、そのような大きな視点へと目が開かれるでしょう。大宮有博先生

が論じられているように、神が与えようとしている安息の受益者は人間だけではなく、すべての生物であり、それどころか地球そのものなのです。大澤香先生は、多くのクリスチャンの方が慣れ親しんできた書に、新しい光を投じてくれます。クジラの腹の中で三日三晩を過ごすという預言者ヨナの話は、クリスチャンでなくとも聞いたことがあるという方は少なくないでしょう。伝統的な聖書解釈では、ヨナ書は捕囚後のユダヤ社会を覆った偏狭な民族主義を批判する書だとされてきましたが、むしろ神の召命から逃げ回って窮地に陥るヨナを、他の被造物たちが助けてくれる

友愛の物語として読むことも可能なのです！ 同じことが、大宮先生の解説する「バラムとロバ物語」にも言えます。近年、エコロジカルな視点から聖書を読み直すことを提唱する良書の出版が相次いでいますが、本書は環境問題のみならず、ジェンダー問題などの今日的課題にも取り組んでいる意欲作です。ぜひ本書を手にとられて、神の全被造物への惜しみない愛という新しい視点で聖書を読み直していただきたいと心から願っています。

(やまぐち・のりお) 日本同盟基督教団中原キリスト教会牧師  
(四六判・一〇四頁・定価一六五〇円・キリスト新聞社)

# 神学ダイジェスト136号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2024年6月発行  
A5版128頁  
定価638円(税込)

特集 キリスト教ヒューマニズム  
巻頭言 キリスト教ヒューマニズム  
イグナチオ的教授法―ヒューマニズム+  
キリスト教、人間中心主義、エコロジー危機  
K・ラーナーとキリスト教ヒューマニズム  
教育と神学の関わり  
トリーと人権  
ヘブライ語聖書における戦争  
コロナ禍における社会教説の忘却  
女性助祭についてのシノドスの識別  
好評連載「典札参加へと招かれて」  
「私は思ったより大丈夫」

瀬本 正之  
T・ツイマウマン  
A・ラッフウェル  
J・C・マーレイ  
R・ケッスラー  
T・レーマー  
S・フオンタナ  
P・ザガノ

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

「牧師の仕事は楽しくない」と  
行き詰まっている牧師たちへ

〈評者〉 大嶋重徳



牧師・大頭の  
「焚き火」日記

大頭眞一著



本の帯の言葉が目飛び込んでくる。「牧師の仕事は、楽しい」しかし先日も、牧師を辞めようと思っっているという友人からの連絡があった。とても悲しい。牧師の仕事は辛いことばかりだと彼は言う。

この本は、自分から出版社に持ち込んだ企画が本になったと言う。無理矢理がすごい。持ち込み企画で面白いものなんてほとんどないから、私のSNSアカウントに大頭牧師から「この本に文章を寄せてくれますか」と送られてきた時、「いつまでとかわりません。いつでもいいです」とあったので、少し放っておいた（PDFファイルだったせいで読みづらかったことも理由だ）。しかし、いよいよ締め切りだという時に、読んで後悔した。面白かったのだ。そして、心から同意した。牧師の仕事は、楽しい。

しかし本文中で大頭牧師は、全然「あー、楽しい」とは自

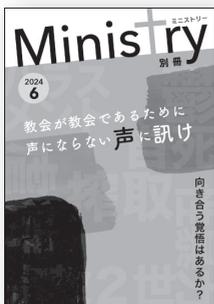
分で言わない。どちらかと言うと、ヘラヘラ、している。この本には、教会で牧師をしている日常で、出会った人たちが出てくる。火山先生の話なんか、本当に羨ましい。「そりゃ。こういう人と出会えたら楽しいよなあ」と思えてくる。〇〇星人の話は、「一体、忙しい毎日、こんなやり取りをする時間がどこにあるんだ」と呆れてくる。カーさんや、テキサス氏たちとの読書会も、大頭牧師だからできるんだよ、と思う気持ちも湧いてくる。

しかし本当は、どんな牧師の日常にも火山先生との出会いはあるし、〇〇星人もいるんじゃないの？ と問いかけてくるのだ。大頭牧師の人を見つめる眼差しが優しいのだ。そして、現役牧師にも「こういう人と時間を過ごすために、牧師なったんじゃないの？」と問いかけてくる。しかし面と向かって言うのと恥ずかしいから、照れながら自分

特集

別冊 Ministry  
教会が教会であるために  
声にならない声に訊け

満を持して、「あの」雑誌が帰ってきた――。



雑誌「Ministry」が2009年に創刊して15年。地方教会で奮闘する次世代の牧会者を応援したいという当初の志に立ち返り、コロナ禍の危機を経てなお教会内外に蔓延する「声にならない声」に今一度耳を傾ける。

- 「サバイバー」たちの鎮魂歌
- 実践講座「ざんねんな言葉集」  
「安心できる共同体になるために」
- 鼎談「牧師のタマゴ未来会議」
- 「ハタから見たキリスト教」  
松谷創一郎（ジャーナリスト）

B5判・72頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区新小川町9-1 4F  
03-5579-2432 support@kirishin.com

を語らずに人を語り、人に語らせて、「牧師の仕事は、楽しい」と表現する。この本は牧師だけでなく、信徒にも、教会にいる人たちの面白さに気づく教会の眼差しを教えてくれる。もつと互いに面白がつていんだよと。そして、もつと聖書の神が開いている世界に向かっているように励ましてくれる。

また、この本に出てくる人物の誰も信仰告白へと導かれない。「いわゆる結果」を出さないといけないと、追い詰められたりする牧師への配慮もそこには見える。そしてそういうのが、牧師の手柄に見えることが嫌なんだと思う。だから読む人に、「あるべき楽しさ」というプレッシャーは与えない。

何度もこの本を読むと、この本の向こう側に、若いころ、

この大頭牧師はきつと苦勞しただろうなという痛みも透けて見える。悔しさや悲しさを、たくさん通ったのだろうと思う。しかしそれは直接会って、話をする時まで「取っしておいてね」ということなんだろう。きつとこの本の読者で、牧師になりたいと志す人と大頭牧師は喜んで会ってくださるだろう。「牧師の仕事は楽しくない」と思って行き詰まっている牧師にも、いくらでも時間を割いてくれるのではないか。この人もまた、大物牧師の元へと無理矢理、飛び込んでいった。借りを返す時が来ている。だから恐れを知らずに、飛び込んでいくと、そこで初めて牧師の苦しさを話してくれるはずだ。そしてそんなことがあったとしても、やっぱり「牧師の仕事は、楽しい」と言うに違いない。

(おおしま・しげのり) 鳩ヶ谷福音自由教会牧師  
(四六判・一六八頁・定価一四三〇円・キリスト新聞社)

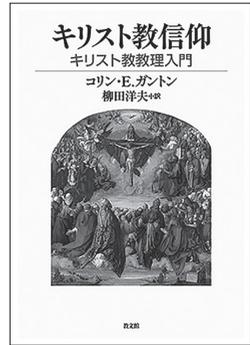
# 伝統を踏まえた革新的な教義学

〈評者〉 近藤勝彦

著者コリン・ガントンはロンドン大学キングス・コレッジのキリスト教教義学の教授でした。オックスフォードのマンズフィールドという会衆派を背景にしたコレッジで神学を修めた人で、この背景から現代神学を展開する姿勢は、私にとっては興味深い存在でした。パネンベルクより一世代下で、私の同世代の神学者と感じていました。

ガントンの研究には、三位一体論とそれを踏まえた創造論の研究（『三位一体的創造者——歴史的ならびに組織的研究』、一九九八年）があつて、古代から現代に及ぶ主要な教理史と、プラトン、アリストテレス、それにカントの哲学に通暁していました。その豊富な研究は本書の叙述の端々にも現われています。カール・バルトの研究を踏まえながら、二位一体論的と批判したことも記憶されます。

そのガントンの六二歳で逝去しました。その年齢では、



キリスト教信仰  
キリスト教教理入門  
コリン・E・ガントンの  
柳田洋夫訳

キリスト教信仰  
キリスト教教理入門  
コリン・E・ガントンの著  
柳田洋夫訳



バルトなら『教会教義学』の創造論も和解論もなく、テリッヒなら『組織神学』なしです。本格的な教義学はまだもつぱら計画の中でした。しかし本書が残されました。本書はガントンの教義学のほぼ全貌を提示した貴重な著作です。

本書の構成は古代の信条（使徒信条やニカイア信条）に従って三部構成です。第一部は「天地の造り主」（「創造」と「摂理」と「男と女」）を扱い、第二部は「神のひとり子、私たちの主」（「救い」「イエス・キリストとは誰か」「受肉と人性」）を扱い、第三部は「完成させる方・聖霊」（「教会論」「キリスト者の生」「最後の敵」）を扱います。それに「結語」として「三位一体論」、全体一〇章、三八節の教義学です。

本書の特徴を一言で言えば、伝統を踏まえた革新的な教

義学と言えるでしょう。本書の革新性には、現代の文明や社会に対する敏感な感受性を持ったガントンの文化の神学が関連しているとも言えるでしょう。経綸的三位一体論が本書の全体を貫きます。神（御父）の働きは「二つの手」（御子と御霊）によって媒介されていると語られます。また、御子と御霊の関係は永遠のもので、「子は、子と父の愛を聖霊が実現し成就する仕方によって子となることができる」と言います。「子は父より生まれ」は、聖霊の介入によるとの主張でしょう。その他、注意深く読むことで、読者は新しい主張に気づき、多々発見があると思われれます。キリストの人性が強調され、イエスの生涯が召命も含めて注目されます。キリストの代償は誰に対して支払われたかと問うべきでないとされます。幼児洗礼を教会の公同性

から肯定する主張なども見られます。専門性を秘めた入門書です。

疑問とするところ、足りないと思われるところもないわけではありません。教義学序説が欠けていて、「啓示」については記されません。「イエスの伝道」は言及されますが、救済史における「伝道」は無視されています。「キリストの不在」がしばしば語られるのは、甚だ問題だと思われれます。

決して容易と言えない凝縮された著者の文章ですが、訳された訳者の苦心と訳注や解説を記された訳者の労を多としたいと思えます。

（こんどう・かつひこ）東京神学大学名誉教授  
（A5判・三二〇頁・定価四〇七〇円・教文館）

ヨベルの新刊・既刊案内



**傷によつて共に生きる**  
弱くてやさしい牧師の説教集

北口沙弥香  
日本キリスト教団  
愛川伝道所牧師

不肖の「師匠」富田正樹、大いに推す！  
自分を何処に置くか、何処から見るかです。たくまわつてくる福音書の風景！自身を持つ傷、残り続ける傷によつて互いに共感し、共に苦しみ、共に歩む。「セクシャル・マイノリティ」で二足のわらじ稼業の牧師による魂の説教集。  
最新刊！ 新書判・二四四頁・一四三〇円



**少女の命・女性の命**  
嵐の中から新たな命

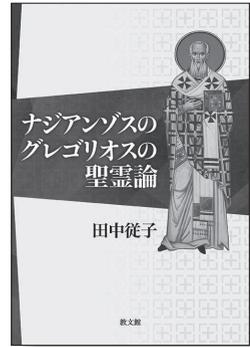
九州教区協力司祭  
吉岡容子

新書判・一九二頁・一三二〇円  
新約聖書学 青野太潮氏すいせん！  
聖書は答への書ではなく問いの書。疑い、問い、詰め寄り、ぶつかっていく。誰に？ そう、神・あの方に。その時巡り始める新たな命の胎動を信徒と共に見つめてきた「司祭の魂の説教、十五編「治療されること」と「癒されること」は同じでしょうか、と。

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

## 信仰の内容と聖書の読み方の一致

〈評者〉 阿部仲麻呂



ナジアンゾスの  
グレゴリオスの聖霊論  
田中従子著



四世紀におけるナジアンゾスのグレゴリオスの聖霊論は、もはや他の神学者の追隨を決してゆるさぬほどにキリスト教神学史上の画期的な独創性を帯びている。なぜならばグレゴリオスこそが歴史上最初に聖霊の神性（神としての本性、神らしさ）を明確に述べたからである。もちろんアタナシオスやディデュモスやバシレイオスもまた聖霊の重要性を指摘したのだが、聖霊が神であることを明言しなかった。しかし御父と御子イエス・キリストとともに聖霊を尊敬の対象として感謝と讃美を捧げる仕儀を明確に説明したのは、やはりナジアンゾスのグレゴリオスだった。それゆえ現在に至るまでのキリスト教信仰の最重要概念たる「三位一体論」を完成させた真の「神学者」の名は永遠に記憶されるだろう（歴史的にも四五一年のカルケドン公会議の際に「神学者」の称号を与えられた）。

このたび我が国初の単著としてナジアンゾスのグレゴリオスの聖霊論の本格的な研究書が世に送り出された。快挙である。著者・田中従子が本書で指摘するように、一九九〇年代以前におけるグレゴリオスの神学に対する研究は不遇の歴史の連続だったからである。特にナジアンゾスのグレゴリオスの友人であるバシレイオス（兄）やニュツサのグレゴリオス（弟）のテクストの解釈研究ばかりが増大するだけだった。その理由は、おそらくナジアンゾスのグレゴリオスが絶えずバシレイオスに強要される形で教会共同体の指導的な責務を果たさざるをえなかったことや第一コンスタンティノポリス公会議の主導的な議長職を中途で放棄して隠遁生活に入ったことよって「消極的な人物」という誤解を招いたからなのかもしれない。しかし田中は一九九〇年代以降の研究史を手際よく整理して研究者

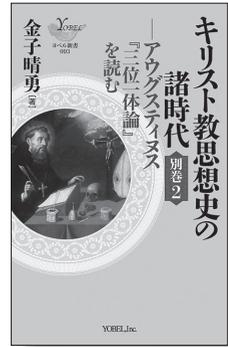
相互の連関の意義を明らかとしつつ、「新たに照らされた光」という見出しでグレゴリオスの神学の復権を謳う。つまり田中は Norris によるテキスト校訂の意義を紹介することから始めて、Bealey による三位一体論研究や Hofler によるキリスト論的な研究を評価するとともに、さらには Matz による聖書解釈の視点からの研究による「清め」と「神化」の関係性の明確化の意義にも言及する。その上でアタナシオスとグレゴリオスとの正統信仰の堅持姿勢の連続性を解明した関川泰寛の業績を紹介するとともに、我が国で最初に発表されたナジアンゾスのグレゴリオスのテキスト解釈にまつわる阿部の二つの学術論文（一九九七年と二〇一〇年）の「救済論的実践的聖霊理解」という結論をも引用している。しかし田中はグレゴリオスの「第五神学講話」の内容に見られる「神による啓示」を説明する際に、①旧約時代に御父として自己を示した神の姿勢↓②新約時代に御子および聖霊として連続的に自己を示した神の姿勢、という「二段階説」を提案する（阿部は①旧約時代の御父による啓示↓②新約時代の御子による啓示↓③教会の時代の聖霊による啓示、という「三段階説」を用いて解釈する）。田中によれば、教会共同体の誕生と発展を写真した使徒言行録における聖霊降臨の出来事を経験した弟子たち

の歩みは新約時代に含まれるのだから、今の私たちもまた新約時代を生きており、教会共同体の時代が独立して設定されるわけではないとされる。たしかに聖書に記録された教会共同体の在り方を私たちも受け継いで生きているのであるから（私たちも信仰の円熟をもたらす聖書解釈を目指すことで、信仰の内容と聖書の読み方の一致を実現させる）、田中によるグレゴリオスの啓示理解に対する解釈は興味深く、新鮮であり、まさに聖書研究に力を尽くすプロテスタント神学の立場をも補強する。感心させられたが、評者は三段階説を棄てずに、今後、新たなナジアンゾスのグレゴリオス研究書を世に贈る決意を固め資料読解を再開した。他に東方神秘思想研究の大家である久松英二の研究を補足する見解も書かれている。なお田中は恩師の関川泰寛とともに Stead による『古代キリスト教と哲学』（教文館、二〇一〇年）の翻訳にも取り組んだ（第12章でナジアンゾスのグレゴリオスが扱われた）。過去の先達への畏敬と愛情を動機とする田中の見事な研究の労作は読者を鼓舞する起爆剤である。感謝しつつ心より讃辞を贈る。

（あべ・なかまろ 日本カトリック神学院教授  
A5判・三〇六頁・定価四九五〇円・教文館）

# 「愛」の観点から『三位一体論』 を読み解く良き道標

〈評者〉 出村和彦



キリスト教思想史の  
諸時代 別巻2  
アウグスティヌス  
『三位一体論』を読む  
金子晴勇著



『キリスト教思想史の諸時代』別巻2として待望の「アウグスティヌス『三位一体論』を読む」が刊行された。本書の特色は、三位一体の教義をアウグスティヌスが「カリタス＝聖い愛」の本性から一貫して説明していることを明確にしたことにある。

著者金子晴勇先生は、彼の三位一体の神についての根本的思想を教義論争の断片的な主張からではなく、紆余曲折（付録資料「アウレリウス宛書簡一七四」参照）を経て全一五巻に結実した『三位一体論』でアウグスティヌスが長い時間をかけて取り組んだ三位一体の神を「信仰しつつ理解を求める探求」の諸相として示す。それはまた、若き日の最初の学術的取り組みから七〇年を経てついに本書を完成した著者の心を貫く『三位一体論』への持続した関心から汲み取られた味わい深い成果である。

本書は、古代教会での論争点をコンパクトにまとめ（第一章）、全巻の構成を第一巻から第七巻（第二章）第八巻から第一五巻（第三章）に分けて、各巻で取り組まれている問題を見通しよく整理しているのので、原典や翻訳を読解するのに良き道標となっている。

「アウグスティヌスの説く聖い愛カリタスは神への愛と自己への愛とを融合させた統合体となっている」ことを本書は強調する（本書一四〇頁）。確かに、『三位一体論』は、愛の経験的な現象から「愛する者」「愛されるもの」「愛」の三肢を取り出し、ここに三つでありながら一体である「三位一体」の痕跡を見出し、さらに、精神内部で三つが一致した「精神・自知・自愛」の三肢から知性的認識における「記憶・知性・意志」の三肢が発展的動的に立てられており、「存在・認識・愛の三一構造として一般化できる」

(本書一五三頁) という三位一体なる神の像の内的探求は、われわれ人間がそれを生きそれによって生かされている神の愛の探求でもある。

本書は、古代教会の歩みに従いながらも受肉したキリストの前での自己認識が必要であることを説いた彼の受肉の神学(第四章)、「神の像」の理解(第五章)、著者の研究の出発点である『三位一体論』における信仰と理性(第六章)、知性的認識と照明説(第七章)、神への超越機能と三位一体神秘主義(第八章)、ルターとの相違への示唆も含むアウグスティヌスの現代的意義(第九章)の各論で、三位一体の教義理解が今日のわれわれにとって哲学的にもチャレンジングに迫ってくることを知らせる。

さらに本書は、神の本質である知恵に関与することが神

への礼拝であるとアウグスティヌスが考えて、「記憶・知性・意志によって行われる礼拝は、一般に人間精神が神の像であるところの知恵の内実を制限している」(二二〇頁)と指摘するシユマウスの「三位一体的神秘主義」といった性格付けを見据えて、現世においてできる限り「三位一体」の「礼拝」として「一つの霊」となることへと読者を誘うのである。

本書刊行をもってシリーズ全7巻別巻2が完結し、著者の靈性理解の深みから一貫した視点で教父時代から宗教改革、近代・現代までを手に取りやすい新書の形で総合的に展望することが可能となった。この企画の完成を心より喜ぶたい。

(でむら・かずひこ) 中央大学文学部教授  
(新書判・二八〇頁・一三二〇円・ヨベル)

ヨベルの既刊・重版案内



## 原始キリスト教の大貫隆 「贖罪信仰」の起源と変容

贖罪信仰そのものが、いまだ議論と再検証の卓上に置かれていた。イエスは人類の罪を贖うため身代わりとなって神に裁かれ十字架で死なれた。この「贖罪」を「キリスト教信仰の要諦」とする考えは、何処を起源とし、いかなるプロセスを経て変容・発展・定着してきたか。「贖罪信仰」の核心に迫り、キリスト教の再構築を静かに促す。四六判上製。二九二頁・二二〇〇円



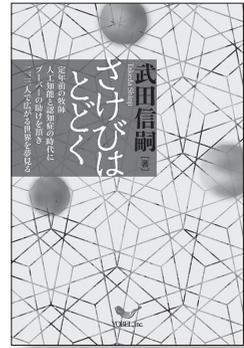
## 携帯版 Q文書 山田耕太

日本における「Q」研究の第一人者が福音書及びイエス理解の深化を願い分りやすく開示した入門書! 「イエスの言葉」は四福音書だけではなかった! 「Q文書」が対訳付・ハンデイスイズで新登場! 使える・引ける・読める索引付きの決定版。新書判・一九二頁・一六五〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

## 不条理に満ちた時代への提言

〈評者〉**金本 悟**



さげびはとどく

定年前の牧師  
人工知能と認知症の時代に  
プーパーの助けをいただき  
二、三人で広がる世界を夢見る

武田信嗣著



武田信嗣牧師の『さげびはとどく』（二〇二四年）を拜読させていただいた。

私がこの本を読み、一番強く印象に残ったのは、イエス・キリストの十字架上での父なる神への叫び（祈り）である。そして、そのイエス様の叫びを聞いた者として一緒に（二、三人で）イエス様の招きに応じようよ！」との叫びである。イエス・キリストの十字架での死は、不条理の不条理である。しかし、その場にて正義と愛に満ちた平和の神様がイエスの叫びを聴かれていた。その祈りを聞いた二人あるいは三人の者たちから神様の招きに応える弟子たちが起こされてきた。そして、弟子たちの群れが広がっていき教会となった。

著者は、「なんで日本のキリスト教はいつまで経っても人口の1%のままなのか」と叫び、祈った武田二郎牧

師を父に持つ。この現在の日本において、イエス様の呼びかけの声を聴きその声に応答しようとする。その時、このイエス様の呼びかけを一人で聴くのではなく二人あるいは三人で聴きたいと祈っておられる。二人あるいは三人で応答することの豊かさを知っているのです、この本の読者に「あなたも一緒に神の呼び掛けに応答しようよ！」と呼び掛けています。

武田信嗣牧師は、神様の導きの中で、メノナイト・ブレザレン教会で牧師の子息として育ち、牧師となり、定年を迎えようとされる。その中での幾多の牧会的苦悩を祈りと賛美に変えつつ歩まれた。私は著者や他の牧師先生方と共に、米国のイースタンメノナイト神学校、ボストン神学学部、合同メノナイト神学校を訪問し、共に礼拝を守る機会が与えられた。その時著者は礼拝ごとに奏楽を担当され、

賛美と祈りの声をあげられていた。

その武田牧師に「われと汝」（マルティン・ブーバー著）として対峙してくださる方が神様である。著者は現代を「人工知能と認知症の時代」と捉える。この時代には人間の知能や人間の人格性が揺らいでくることがある。おうおうにして人は、他人（特に自分より弱いと見なす他人）を人としてというよりは物として扱うような罪人である。さらに、現代は「人」をデータの一部である「物」として扱うことを厭わない人工知能の時代でもあり、「人」から『認知機能』が衰えていくと「物」として扱われやすい時代である。

人間の弱さを知る武田牧師は、その弱い者を「物」として見ることなく「人」として語りかけてくださる創造主なる神様の声を「人工知能と認知症の時代」において聴いている。現代の戦争も主要な武器は人工知能を満載したミサイルやドローンの時代である。「敵」を「人」であるよりは「物」として扱う時代である。著者が牧会するメノナイト・ブレザレン教会は敵をも愛しなさいと語るイエス様の言葉を大切に「平和教会」の一つである。この神様に

向かって一緒に叫び続けていこうよと祈りながら語りかけている。その叫びは、神なき時代にこそ、なおも神の声を聴く姿勢を貫こうとしたシモーヌ・ヴェイユの叫びとも響き合う。

今の「人工知能と認知症の時代」も不条理に満ちた時代であるに違いない。まさに、イエス様が十字架に架けられたときと同じく、政治状況や社会状況によって「正義や愛」も「平和」も見えにくくなり、「人」が「物」として扱われやすい時代である。

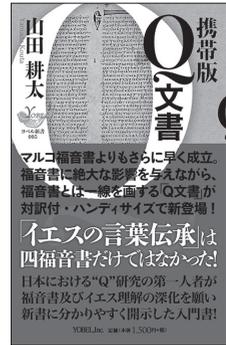
だからこそ、我々に対峙してくださる神様に叫ぼう。その神様を信じて神様の招きに二人あるいは三人で応答していこう。そのような信仰の実践があるときに、神様がその叫びを聞いてくださり、「平和な神の国」建設に導いてくださるとの確信は、武田牧師の言う「二、三人の神学」を生み出す。そして、そのときに、創造主であり歴史を導かれる神様は私たちの叫びを聞いてくださり、日本におけるクリスチャン人口1%の壁を打ち破る知恵と力を与えてくださるであらう。

（かねもと・さとる 日本宣教会理事長、大泉ぶどうの木教会牧師）

（四六判・一六〇頁・一三二〇円・ヨベル）

## はじめて通って読めるQ文書

〈評者〉大貫 隆



携帯版 Q文書  
山田耕太著



Q文書とはマタイとルカ福音書が共通して資料（ドイツ語・Quelle）としているイエスの言葉集のことである。では具体的に、どのイエスの言葉がそこに含まれ、どのようなつながりだったのか、マタイとルカのどちらが元来の文言をよりよく保存しているのか。これらの問いをめぐって一九世紀以来国際的に蓄積されてきた専門研究の量は凄まじく、ここで要約できるようなものではない。しかし一般の読者としては、そうであればこそ逆に、是非一度そのQ資料の全体にお目にかかり、初めから終わりまで通して読んでみたい、と思うのが当然であろう。ところが不思議なことに、それがこれまで簡単には叶わなかったのである。というのも、Q資料全体の本文を信頼に足るかたちで復元し、容易に通読できるようにしたものが存在しなかったからである。

漸く一九九〇年代にそのような本文を復元しようという国際的プロジェクトが立ち上がった。その成果が二〇〇〇年に公刊された「Q批評版」(The Critical Edition of Q, Leuven- Minneapolis) である。そこでは再構成されたギリシア語本文と並べて英、独、仏語訳も同時に読み比べられるようになっていた。本書は言わばその日本語版に当たるが単純な翻訳ではない。というのは、著者の山田氏は「Q批評版」を踏まえて、すでに二〇一八年に『Q文書 訳文とテキスト・注解・修辭学的研究』（教文館）という浩瀚な専門書（著者曰く「卓上版」）を公にしているからである。すでにその卓上版が細部で独自の工夫を凝らしていたが、今回の「携帯版」もその点は変わらない。特に中心部（二二―二二〇頁）は合計五四のイエスの言葉のギリシア語本文と日本語訳を左右の頁に見開きで提示している。そ

の際、全語録に通し番号が付され、さらに個々の語録は a,b,c… の下位分肢に区分されている。Q 文書全体が意図している内容的な配列は、ブロック分けと中見出しで表示される。いずれも文書全体の通読に非常に役立つている。

さらに、中心部に先立って「Q 文書の文学的・社会的・神学的特徴」、中心部に続いて「Q 文書の研究史」と「イエス研究史」がおかれている。いずれもきわめて複雑な事情を簡にして要を得たかたちで解説している。読者は中心部で提示された Q 文書全体を一度読み通したならば、これらの解説を読み、そこに要約されている問題史に照らしながら、今度は自分自身で Q 文書の本文そのものを分析する能動的な読解を試みる事ができる。

能動的な読解は文書全体についてのみならず、個々の語

録についても容易に可能である。例えば、「死体があるところには、はげ鷹が集まってくるであろう」が、本書の語録 Q 52 では、はるか手前のルカ一七 24（人の子の来臨についての言葉）の直後に置き直されている。つまり、Q 文書ではルカ一七 24 + 37 でワンセットだったということである。

事実、マタイの並行箇所二四 27—28 ではそうなっている。マタイがその直前（二四 24）で言っていることと照らし合わせてみると、「はげ鷹」は「偽預言者」、「死体」は偽預言者に惑わされる人間たちのことである。マタイは明らかに「はげ鷹」をマイナスに評価している。なるほどそう言われてみれば、マタイは山上の垂訓の一節「空の鳥をよく見なさい」（六 26）でも、もともと Q 文書（本書では語録 Q 26）が「カラス」と言っていたところを、わざわざ「鳥」



## アジアの視点で読む ルターの小教理問答

J・P・ラジャシエカー 編著

宮本 新訳

●四六判並製 定価一〇〇円

本書は、アジアを背景に持つ六名の神学者によって、ルターの小教理問答をアジアの視点で文脈的に読んだものである。アジアの現実、特に宗教多元主義、また教会が直面している幅広い社会問題（貧困、家長制、不平等、生態学的危機）を考慮しつつ、教理問答の意味と重要性を再認識するための試みでもある。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

に書き直しているではないか。おそらくマタイは旧約聖書のレビ記一—14—15の汚れた鳥類のリストを念頭において、イエスが汚れた「カラス」を優しく受け入れている逆説を均らそうと、価値中立的な「鳥」に書き変えたのである。ましてや「はげ鷹」は同じリストで筆頭に上げられている猛禽である。そう見れば、マタイが二四27—28で「はげ鷹」をマイナスに評価するのも、さもありませんと納得がゆく。

対照的にルカは、「はげ鷹」の言葉を「人の子の来臨」についての言葉（一七24）から分割して一七37に置き直したが、どこであろうと死体に集まってくる「はげ鷹」の超能力をプラスに評価している。人の子の来臨も同様に世界中どこからでも見える出来事なのだから、ここだ、あそこだ、と探し回るな、というわけである。肝心なのは、「人の子」の来臨までまだまだ続いてゆくはずの「日々」に、どう対処するかである。ルカはそのことを教えるイエスの言葉を集めて一つの講話に仕上げた後、はげ鷹の言葉を一七24から引き離して一七37へ移し、講話全体の結びにした

のである。なるほどそう言われてみれば、ルカ福音書は随所で「日々」という文言を繰り返すことが思い起こされるではないか。典型的なのは「主の祈り」の「私たちに必要なパンを日々お与えください」（一一3）の一節である。これもまたQ文書から採られたものである。そこでは元来「今日お与えください」（本書の語録Q18）とあったのをルカが「日々」と書き変えたのである。

二つの事例がそろって教えてくれるのは、マタイとルカがQ文書の個々の語録へ加えた微細な変更が、それぞれの福音書全体の特徴と不可分一体だということである。細部は集まって全体を構成し、全体は細部に現れる。これこそ解釈学的循環に他ならない。本書の刊行によって、福音書を読む醍醐味は専門家の独占物ではなくなり、すべての能動的な読者に向かって開かれることになった。まさに画期的である。ちなみに、本書のギリシア語本文は初級あるいは中級講読のテキストとしても最適である。

（おおぬき・たかし || 東京大学名誉教授）

（新書判・一九二頁・一六五〇円・ヨベル）

**証し**  
日本のキリスト者  
最相葉目 著

**オススメ!**

横浜キリスト教書店  
高橋彦彦さん  
少数派である日本のキリスト者。多くの教会者と信徒の方々の体験を基にした「証し」が決して一様でないことを考えさせられる。自分自身の信仰について振り返る時に良い示唆を与えてくれる本。

定価3,498円

KADOKAWA

全国のキリスト教書店員が選んだ  
いちばん読んでほしい本

# キリスト教書店大賞

## 2024

主催 キリスト教出版販売協会

2023年1月~12月に  
出版されたキリスト教書の中から  
全国のキリスト教書店員が  
大賞を選出します。

Christian Bookshop Awards 2024

あなたはあなたのままでいい  
とっておきの聖書のことは23  
片柳弘史 著 RIE 絵

**オススメ!**

教文館キリスト教書部  
石中頼子さん  
聖書の一節と片柳神父さまの話、RIEさんのイラストが優しく、そばに置いて読みたくなります。

定価1,595円

PHP研究所

**疑いながら信じてる50**  
新型キリスト教入門 その1  
富田正樹 著

**オススメ!**

リバーサイドブックス  
川端洋一さん  
入門者におすすめ。加えて信仰歴の長い方にもおすすめです。

定価1,540円

ヨベレ

**ノミネート 10作品**  
(タイトル50音順)

価格は10%税込

カール・バルト  
《教会教義学》の世界  
寺岡喜基 著

**オススメ!**

キリスト教書店ハレルヤ  
嶋津秀成さん  
膨大なバルトの著書を一望できる入門書。

定価3,080円

新教出版社

**交差するパレスチナ**  
新たな連帯のために  
在日本韓国 YMCA 編

**オススメ!**

名古屋聖文会  
伊奈均志さん  
今こそパレスチナ問題を再考すべき。

定価2,640円

新教出版社

これからを生きるあなたへ  
聖書の知恵 箴言31日  
小林よう子 著

**オススメ!**

善隣館書店  
大森紀代美さん  
厳格な家父長制の時代に父から子へ語られた厳しい言葉の裏側を、今を生きる人たちにもぜひ伝えたいと、言葉の持つ可能性を信じ、なおかつ、神さまのあたたかいまなざしをさっぱりと語った1冊です。

定価1,320円

日本キリスト教団出版局

非暴力の教育  
今こそ、キリスト教教育を!  
小見のぞみ 著

**オススメ!**

京都ヨルダン社  
田代伸一さん  
教える者と教えられる者が認め合い、学び合い、感謝し合う、そこに教育がある。

定価1,760円

日本キリスト教団出版局

**保育者の祈り**  
こどものために、こどもとともに  
望月麻生 監修・著 小林路津子/新井純 著

**オススメ!**

CLCからだね書店  
坂岡凱歌さん  
こどもの心に寄り添い、隠れた思いを無視せず、丁寧に拾い上げて、より良いものへと導こうとする、保育者の祈りの言葉が書かれています。

定価1,320円

日本キリスト教団出版局

夕暮れに、なお光あり。  
老いの日々を生きるあなたへ  
小島誠志/川崎正明/上林順一郎/島しづ子/渡辺正男 著

**オススメ!**

松山キリスト教書店  
平岡光司さん  
熟練の牧師5人の共著で、大変読みやすく、ユーモアも交えた著書です。プレゼントに買っていく人が多く、年配の方々にもお勧めします。

6月  
重版出来  
予定

定価1,650円

キリスト新聞社

わたしが「カルト」に?  
ゆがんだ支配はすぐそばに  
齋藤 篤/竹迫一 著 川島堅二 監修

**オススメ!**

エッセイの木  
永野香織さん  
旧統一協会が話題になり気になっていた時にびつたりでした。体験談など読みやすかったです。しかし内容が軽いわけではなく凝縮した1冊になっていると思います。

定価1,650円

日本キリスト教団出版局

■日本キリスト教団出版局

## 月曜日の復活

——「説教」終えて日が暮れて  
塩谷直也著

前半には説教に関する具体的な提言を、後半には説教する人の苦悩と喜びを綴った書き下ろしを収録。説教することに苦しむすべての人に送る、深い慰めのメッセージ。

四六判・128頁・定価1540円

## 信仰生活ガイド 老いと信仰

山口紀子監修

複数の執筆者が、さまざまな角度から「老い」について解き明かす。認知症や介護も含め、老齢期を信仰に基づいて生きるための、丁寧な道案内。

四六判・128頁・定価1540円

## 平和の種をまく

——祈り、抵抗、共同体

渡辺順子訳

徳田 信解説

イエスに従う者として、平和と正義の支配する神の国を探し求めたヘンリ・ナウエン。この世にあつて「平和の霊性」を生きたることへ読者を導く書。

四六判・192頁・予価2530円

## たからさがし

——祈り、抵抗、共同体

望月麻生著

思うようにいかない日々だからこそ、あなただけの「たから」を探してみよう。消しゴムはんこ作家の牧師がおくる、気づきと癒やしの珠玉エッセー集。

四六判・120頁・予価1400円

### INFORMATION

#### 近刊情報

## クリスチャン・エンディングノート

増田 琴・高橋貞二郎編

クリスチャンとして家族に大切なものを遺したい……そんな思いを実現するためのエンディングノート。具体的な終活の項目に加え、信仰関連の項目も充実。高齢者でなくても、書くことによつて自分の歩みの振り返りにもなる。

B5判、64頁、予価1400円

### ■教文館

## 改革教会の信条と展開

袴田康裕著

日本において「ウエストミンスター信条」を信仰規準として受け入れ、教会形成する課題は何か？ また、ウイング告白の現代の展開として、結婚と離婚や合法的戦争なども取り上げる。

四六判・220頁・税込定価2860円

### ■キリスト新聞社

## 別冊 Ministry (ミニストリー)

Ministry 編集部署

休刊から2年の時を経て「別冊」として復刊。「教会が教会であるために声にならない声に訊け」をテーマに、さまざまな埋もれた声に耳を傾ける。「ハタから見たキリスト教」にはジャーナリストの松谷創一郎さん。

B5判・72頁・定価1650円

## 講解説教 出エジプト記

内坂 晃著

聖書記者の信仰告白と、その背後にある神の御手にまなざしを向けた、15年にわたる著者渾身の説教集。出エジプト記全講解。

A5判・710頁・定価5280円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_system_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaicbs.uccj.jp/	info@sendaicbs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉中央区新館2-2 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@sj.com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都港区新小川町9-1日キ坂内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkiban.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuighte.ne.jp/~yokohamacs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	岐阜市瑞穂区瑞穂16日本キリスト教団瑞穂会館	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiban.co.jp	00170-2-421390
広聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwb3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一乃町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.gotops.jp/roshiyama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2024年7月号

特集Ⅱ 日本宗教史におけるキリシタンから現代へ

寄稿者Ⅱ 狭間芳樹、朴銀瑛、メナチエ・アンドレス

三輪地塩、長谷川(間瀬)恵美、芦名定道

ウクライナ戦争即時停戦論とドイツのキリスト教

会Ⅰ(川田洋二)／好評連載「証言としての旧

約聖書(田島卓)／八木重吉の聖書(今高義也)／

新約釈義ルカ福音書(山崎ランサム和彦)、「日

本のキリスト教」を読む(山口陽一) 古代イス

ラエル文学史序説(勝村弘也) ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

## 編集室から

書籍タイトルの命名に悩んでいる

とき、カトリック新聞の読者投稿欄

で興味深い文章を読んだ。

内容はテレビ番組「マザーテレサ

の「チョコレート」を視聴した感想

だった。投稿者は新聞のテレビ欄に

掲載されているタイトルに惹かれて視てみようと思っただ

う。そして、視るまでに思い描いたものと違ってはいた

が良い内容だったと書いてあった。番組制作者が知ったら、

さぞかし嬉しく思うだろう。

絵本の読み聞かせの仕事をしている方から教えられたこ

とがある。書籍タイトルは短い言葉で内容を表さなければ

ならないが、答えを組み込んではいけない。答えは読みな

がら、あるいは視ながら探していくのが良いのだと言って

## 予告

本のひろば

2024年8月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 関野祐二(書評) 長田栄一著

『神と共に生きる』、荒井克浩著 『無教会の変革』、

濱和弘著 『傘の神学Ⅰ』、田中利光著 『ユダヤ慈

善の近代化』、柴崎聰監 『あらすじで読むキリス

ト教文学』、ロバート・バークレー著 『真のキリス

ト教神学のための弁証』、F・H・バーネット

著 『秘密の花園』他

いた。

また、別の機会では、広告関係の仕事をなさっている方

がお話しくださったことを覚えている。限られたスペース

で言葉を全員に伝えるのは難しい、しかし、社会に溢れる

情報の中でそれを求める人の目を掠めたとき、見つけても

らえるような心に刺さる言葉を選びたいと言っていた。

そういった意味では「マザーテレサのチョコレート」と

いう番組は、タイトルでキリスト信者の心を掴み、期待以

上の情報を届け、視聴者を満足させることができた。

キリストの言葉もこんなふうに、世界中の安らぎを求め

る全ての人へ届けられると良いと思っただ。

(吉崎)

『信徒の友』記事を再編集した、信仰生活の基本を確認するシリーズ



# 信仰生活ガイド《全8巻》 老いと信仰

山口紀子 編

2024年6月25日刊行予定

すべての人が経験する老い。人生の完成に向けたその道を、信仰の希望をもって生きていくための道案内。認知症や介護、高齢者施設、さらには葬儀の備えも含め、十数名の著者が多角的にわかりやすく説き明かす。教会の読書会などにもおすすめの一冊。

◆四六判 並製・128頁・定価1,540円

第2期  
刊行予定

『祈りのレッスン』

好評発売中  
定価1,540円

『苦しみの意味』

2024年9月刊行予定

第1期  
好評発売中

『主の祈り』『十戒』『使徒信条』『信じる生き方』『教会をつくる』  
各巻 定価1,430円

「説教」に苦しみあえぐすべての人に贈る、深い慰めのメッセージ

# 月曜日の復活

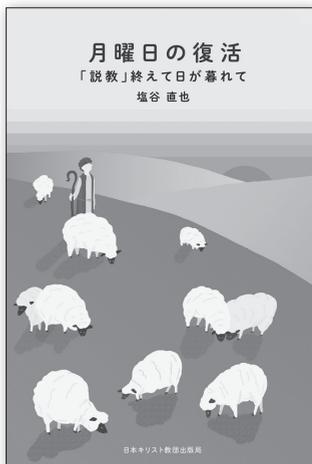
## 「説教」終えて日が暮れて

塩谷直也

2024年6月20日刊行

前編には説教を準備する上で著者が大切にしていることや、オンライン説教の作り方に関する文章を収録。後編は説教に苦闘する説教者が一週間で経験する心の動きを丹念に追った書き下ろし。著者独特のペースが、説教に苦しむすべての人々にしみわたる。

◆四六判 並製・128頁・定価1,540円



# ユダヤ教の祈り

祈禱文と解説

吉見崇一 編訳

ユダヤ教では、何を、どう祈っているのか

世界各地で生まれ、伝承されてきた、一〇〇を超える多様なユダヤ教の祈禱文を紹介。家庭や会堂の礼拝で唱えられる、神への感謝と賛美のことば。

市川 裕氏 東京大学名誉教授 推薦

● A5判・並製・216頁・定価2,800円



既刊、好評発売中！

## 生きるユダヤ教

カタチにならないもの強さ

勝又悦子／勝又直也 著

歴史の中で幾度も存亡の機を乗り越えてきたユダヤ人。彼らを支えたユダヤの教えや発想法から、この世を力強く生き抜く知恵を体得する！ 奥深いユダヤ教の諸相を学ぶ入門書。

● 四判・並製・352頁・定価2,750円



# 古代イスラエル史

「ミニマリズム論争」の後で…最新の時代史

B・U・シッパ 著 山我哲雄 訳

従来の歴史像を覆す新考察

一神教と無縁のユダヤ教があった？ エルサレムは最大の神殿ではなかった？ 旧約聖書の史料の価値を争った「ミニマリズム論争」と、古代オリエント世界の最新の考古学研究を経て激変した、真の「イスラエル」像を知る格好の入門書。

● 四六判・並製・194頁・定価2,310円



既刊、好評発売中！

## 古代イスラエル宗教史

先史時代からユダヤ教・キリスト教の成立まで

M・テイリー／W・ツヴィッケル 著 山我哲雄 訳

パレスチナで成立した二つの世界宗教はどのようにして形成されたのか？ 諸共同体により営まれた多種多様な宗教実践の実態を、考古学的遺物や文献資料から浮き彫りにする。

● A5判・上製・338頁・定価4,600円



### 6月の新刊 (価格表示は税込)

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇二四年七月一日発行 (毎月一回一日発行)  
本のひろば 第七九九号 二〇二四年七月号

発行所 〒150-8514 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3331-6510 振替00170-511679  
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷所  
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3331-6510

定価七八円 (税抜七一円) (¥63円)  
一年分二〇〇円 (送料共)

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
電話 03-3561-5549 (出版部直通) (呈・図書目録)

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は (e-shop 教文館)  
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



本のひろば.com

